

1695

1694

頁九

(裁決) 行決
覽 回 査
長(部)局

政務
書記
官
保存
決裁

四巻文書集より取運ハレアリ

官方中 軍務課

本件圖に書又四巻より取運ハレアリ
運ビタリ一巻は調査中

軍務課中

陸軍大臣官房

(裁決)
覽 回

長(部)局

政務官 同付（決行前）

(決行後)

審案
筆記者

陸

軍

保存期限

受 播
領 號

陸滿容受第一三九五號

起元應(課名)

關東軍

決裁指定

傳名

滿洲國
外務局
要員
任用
方式
圖
說

執行指定

大 臣

次 | 官 次 務 政

參與高 級副官 主務局長

主務課長

副主
官務

記

主務課員

房官臣大

主務局訓

了結領受

領受 賜

昭	昭
---	---

和 昭

和 和

和 諧

1

四

年	年
---	---

年 年

五

1

三

五月

月 結

十一

四日

11

10

次官より外務次官宛照會（陸滿密）
 昭和十年十二月二十五日附人機密第八八七號ヲ以テ有題
 要員トシテ御推薦相受ケタル外務軍務官因
 付景一ヲ左記ノ通任用致度旨閣東軍ヲ通ニ
 申出有之ニ付御詮議方相煩度

左記

因付景一

任外務局理事官 叙薦任二等

給七給俸（給三四〇円外ニ職務手当五〇円各期
 手当三七円五〇銭）

政務處第二科長

陸滿密第一八號

昭和十年一月十四日



満秘人



2691

陸軍参謀長

關參滿發第七五號

滿洲國外務局要員任用方ニ關スル件

昭和十四年一月十一日

關東軍參謀長 磯谷廉介

陸軍次官 山 脇 正 隆 殿

客年十一月二日附陸滿密第五四八號ニ依ル首題要員トシテ推薦ノ
外務事務官田付景一ハ左記ノ通任用致度ニ付交渉方配慮相煩度
追テ任用發令月日ハ現官退官ノ翌日附ト致度ニ付申添フ

左記

田 付 景 一

任外務局理事官 敘薦任二等

給七級俸（給三四〇圓外ニ職務手當五〇圓冬季手當三七圓五〇錢）
政務處第二科長

陸 軍



政務官 書記官 同付（決行前）

(決行後)

審案
筆記者



11

次より關東軍參謀長宛通牒（陸滿密）
 十月十八日附關參滿發第一三九一號首題ノ件
 外務省より左記ノ者推薦アリニ付通牒ス

左記

外務事務官正七位田村景一

（通商局第四課勤務）

陸滿密第五四八號

昭和三年十二月二日



機密

0021

満定一三九五

人機密第八八七號

昭和十三年十月二十五日

外務次官 澤田 廉

陸軍次官 東條 英機 殿

滿洲國外務局委員推薦方ニ關スル件

本件ニ關シ本月二十三日附陸滿密第五三五號ヲ以テ御照會ノ趣了承
右ハ左記ノ者ヲ推薦致度ニ付可然御取計相成度此段回答申進ス
記

外務事務官 正七位田 付 景 一

(通商局第四課勤務)

外務省

日本經濟出版社 R5

アジア歴史資料センター

次官より外務次官宛照會 (陸満密)
 首照ノ件ニ關シ別紙寫ノ通關東軍參謀
 長より申越アリタルニ付テハ適任者推薦方ニ
 關シ御配慮相煩度

陸軍第五三五號

昭和七年十月二十三日



1703

可思交河
初裁

年智謀長

華務長

陸軍

關參函發第一三九一號

滿洲國外務局要員推薦方ニ關スル件

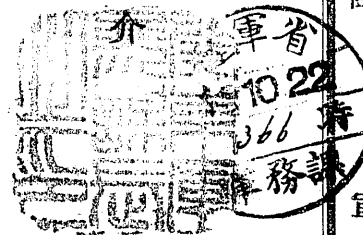
昭和十三年十月十八日

關東軍參謀長

磯谷廉

陸軍次官 東條英機 殿

首題要員トシテ條約通商經濟方面ノ專門的學識經驗ヲ有スル者ヲ
日本外務省現職官吏中ヨリ任用致度留總人々第五三八〇號寫ノ通
滿洲國側ヨリ申出アリタルニ付適任者推薦交渉方配慮相煩度



陸

軍



總人第五三八〇號

康德五年十月十四日

滿洲帝國國務院總務長官 星 野 直 樹

關東軍參謀長 磯 谷 廉 介 殿

外務局政務處第二科長要員推薦方ニ關スル件

外務局政務處第二科長ハ現在同處第一科長ヲシテ兼務セシメアルガ今般專任科長ヲ補充致度ニ就テハ之ガ要員トシテ條約通商經濟方面ノ專門的學識經驗ヲ有スル者ヲ日本外務省現職官吏中ヨリ適任者推薦方御配慮相煩度及御依頼

1705		1706		1707	
書政					
他各文書第3巻に 実施せしむる 官房中 軍務課					
(裁決)行決後		連 帶			

1707
 (裁決) 行 決
 連

1706

書政
 保
 決

右件二封宛 田舎者之云々 字跡 如何
 左様 如何 一様 如何 調査 如何 如何
 申 務 部 何 中
 陸軍大臣官房